

編集後記

二〇〇〇年問題で年が明けたかと思うと、早や三月も終わりです。年々時間の経つのが早く感じるようになりました。年のせいでしょうか。

本年度の最終号をお届けします。論説が二編、史料紹介が一編と数の上から見ますとやや寂しく思われませんが、内容はいずれも充実したものです。河野泰彦氏の論説は、古代史研究者の少ない大分県では貴重な論考で、今後これに続く古代史の論説が待たれます。甲斐素純氏は、玖珠町史の編纂業務に関与し、その過程で調査研究された史料でまとめたのが本論説です。史料紹介では、前号に引き続き安藤正之日記「槇の葉」より明治元年の日常生活を紹介しています。

次年度は予定通り刊行します。会員諸氏の投稿をお待ちしています。